

## 大学入試と読書について考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。先週の土・日曜日には大学センター試験があり、高校の現役生と卒業生の方が50数万人も受験しました。どんな問題が出たかは、1月17日と1月18日の朝刊に多くの科目で掲載されましたので、ご覧になった方もいらっしゃると思います。放送をお聴きの皆さんにも、新聞を通して、大学進学を目指す高校3年生ないし卒業生の方がどんな問題を解いているのかを知っていただければと思います。
2. 昔の大学入試の問題に比べるとそれほど難しくはありませんが、とにかく長い、長い、長い問題文です。英語も、国語も、理科・社会も、数学も、長い問題文を読んで自分の頭でよく考え、その上で解かせるという問題です。昔のように、重箱の隅をつつくような問題は一切出ていません。ですから、素晴らしい問題ばかりだと思いたしますが、とにかく長いです。
3. そこで一番大事になるのが、読解力です。やさしい文章ですが、問題文に書いてある事柄を最後のページまで正確に読み通すことができる力が大事です。それから、設問と選択肢(いくつかの項目の中から1つ選べという問題がたくさんあります)を全部読み通してよく理解し、その上で答える力が大事です。ですから、それらの力、つまり読解力がない方はなかなか合格できません。
4. では、読解力を身に着けるにはどうしたらよいのでしょうか。毎回お話をさせてもらっていますが、大事なのは語彙、つまりことばです。ことばの意味がわからないと、文章の意味はわかりません。ですから、意味のわからないことばがあったら気持ちが悪いと思い、その意味を辞書で調べてください。私はどちらかというと紙の辞書のほうが好きですが、電子辞書でも紙の辞書でもよいのでいつもいつも持ち歩き、わからないことばに出合ったら必ずその場で引いて、引いて、引きまくりましょう。また、絶えず本と新聞をカバンの中に入れておき、長い文章を読む練習をしてください。本は1冊、新聞はお家の方からプレゼントしていただいた昨日の新聞を読んで、読んで、読みまくりましょう。
5. このように、意味のわからないことばがあったら気持ちが悪いと思って、辞書を引いて引いて引きまくること・本や新聞を読んで、たくさんの量の文章を正確に読み取る練習をすることが大

事です。そうしないといくら教科の内容を勉強しても、問題文が最後まで読み終わりませんので、本当に困ってしまいます。栃木県・群馬県・茨城県・埼玉県などの公立中高一貫校入試、私立中入試、私立高入試、公立高入試にも、長い文章をとにかく読んで自分の頭で考え、その上で正解を導くという問題がたくさん出ます。これはPISA型という傾向の問題です。最近の問題は、課題を自分で探して、自分の力で考えるという出題に大幅に変わってきていますので、読解力を養成していただければと思います。

6. ところで、今日は1冊の本を紹介させていただきます。それは、慶応義塾大学出版会から出ている本です。慶應義塾の元塾長の小泉信三先生がお書きになった本です。非常に有名な話ですが、小泉先生はテニス部の監督をなさっていて、今の天皇陛下の前の天皇陛下の家庭教師といますか、ご指導をした方です。小泉先生は、スポーツによって得られる3つの宝物を紹介してくださっています。その1つは、「練習は不可能を可能にする」です。スポーツをすると、今までできなかった事柄ができるようになる、つまり練習は不可能を可能にすると教えていただきました。2つ目は、「フェアプレイの精神」です。これは、卑怯なこと・不正なこと・無礼なことはせずに、正しく戦いなさいということです。3つ目は、「スポーツをして得られるものは、よき友である」です。スポーツをすると運動競技の技術を共にしたという間柄になり、何でも言える友達、喜びも苦しみも分かち合える友達、何を言っても誤解しない友達が得られるということです。小泉先生は、スポーツをすると「練習は不可能を可能にする」「フェアプレイの精神」「よき友」という3つの宝物が得られると教えていただきました。私はこのことばが好きで、たびたび皆さんに紹介させていただいています。

7. このように、1冊の本を読むと本当にいろいろなことが学べます。私がお薦めしたいのは、その学んだことをたとえ1行でもよいので、「書き抜き読書ノート」と名付けた自作のノートに書き抜くことです。自分の読んだ本の中で本当に参考になったところだけでも書き抜いておくと、素晴らしいと思います。私は、先ほどの小泉先生の本を読んだあとに、私の書き抜き読書ノートに「スポーツをして得られる3つの宝物として、練習は不可能を可能にする・フェアプレイの精神・よき友」ということばを書き抜きました。そして、自分が生活したり、みんなと話し合ったりするときの参考にしています。

8. 皆さんにも読書をたくさんしていただきたいと思います。最低でも1か月に1冊、できれば2週間に1冊は読んでいただきたいです。ちょっと欲張ったことを言うと、1週間に1冊、慣れてきたら3日に1冊は読んでいただきたいです。このような形で、社会人も学生も、子供も大人も本を読み、自分の思料能力を深めていただけたらと思います。今日は、大学入試の話と読書の話を書かせていただきました。